



2019年3月期

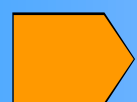
# 決算補足資料

証券コード：6908

2019年5月8日

イリソ電子工業株式会社



-  **I . 2019.3期 連結決算概要**
- II . 2020.3期 連結決算見通し**
- III . 中期経営計画(18.3期～20.3期)進捗状況**
- IV . 長期ビジョン1,000億円に向けて**

# 1. 2019年3月期 業績のポイント(期初計画比)



単位：百万円

期初計画との比較では、市況の悪化、顧客在庫調整により売上、利益ともに計画未達

	期初計画	実績	差異
売上高	45,500	42,834	△2,666
車載(AVN)	17,700	16,142	△1,558
車載(エレクトロニクス)	21,000	20,525	△475
コンシューマー	4,200	3,983	△217
インダストリアル	2,600	2,184	△416
営業利益	8,900	6,084	△2,816
当期純利益	6,100	3,722	△2,378

- ・ 売上：(車載市場) 米中貿易摩擦による中国での自動車販売台数減少、欧州でのWLTP導入による自動車販売の低迷と在庫調整等により計画未達  
(インダストリアル市場) スマートフォンの販売不振と貿易摩擦によるFA機器への投資減少により計画未達

注：WLTP：「国際調和排出ガス・燃費試験法」

- ・ 営業利益：売上減少に伴う操業度減と南通工場での製品生産の大幅減少による損失拡大に加えて、品質関連での一時費用発生により計画未達
- ・ 当期純利益：営業利益減に加えて、過年度法人税などの追加費用が発生し計画未達

## 2. 2019年3月期連結業績(前期比)



単位：百万円

	18.3期 累計	19.3期 累計	前期比
売上高	42,248	42,834	585 101.4%
営業利益	8,426 (19.9%)	6,084 (14.2%)	△2,342 72.2%
経常利益	7,872 (18.6%)	6,325 (14.8%)	△1,546 80.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,456 (12.9%)	3,722 (8.7%)	△1,733 68.2%
EPS	230.47円	157.70円	
為替レート 期中平均	ドル 110.81円 ユーロ 129.45円	110.69円 128.43円	△0.12円 △1.02円

### 3. 売上高詳細(市場別)

単位：百万円

		19.3期 累計	前期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		36,667	102.3%	85.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要地域で自動車販売が不振の中、ADASや電動化の進展を背景にエレクトロニクス分野が好調</li> <li>・ ADAS関連で安全系向けが前期比約120%</li> <li>・ 電動化関連でパワートレイン系向けが前期比約180%</li> </ul>
区	AVN (カーAV、ナビゲーションシステム等)	16,142	93.8%	37.7%	
分	エレクトロニクス (安全系、電装関連、駆動系等)	20,525	110.2%	47.9%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TV等)		3,983	95.5%	9.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲーム機、デジカメ、複合機向けを中心に減少</li> </ul>
インダストリアル (産業機器等)		2,184	97.3%	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貿易摩擦の影響で設備投資抑制、在庫調整が発生し微減</li> </ul>
合計		42,834	101.4%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去最高売上更新</li> <li>・ 海外比率79.3%</li> </ul>

注：AVNIは、オーディオビジュアルナビゲーションの略で、カーオーディオ全般、ナビゲーションシステム等のこと

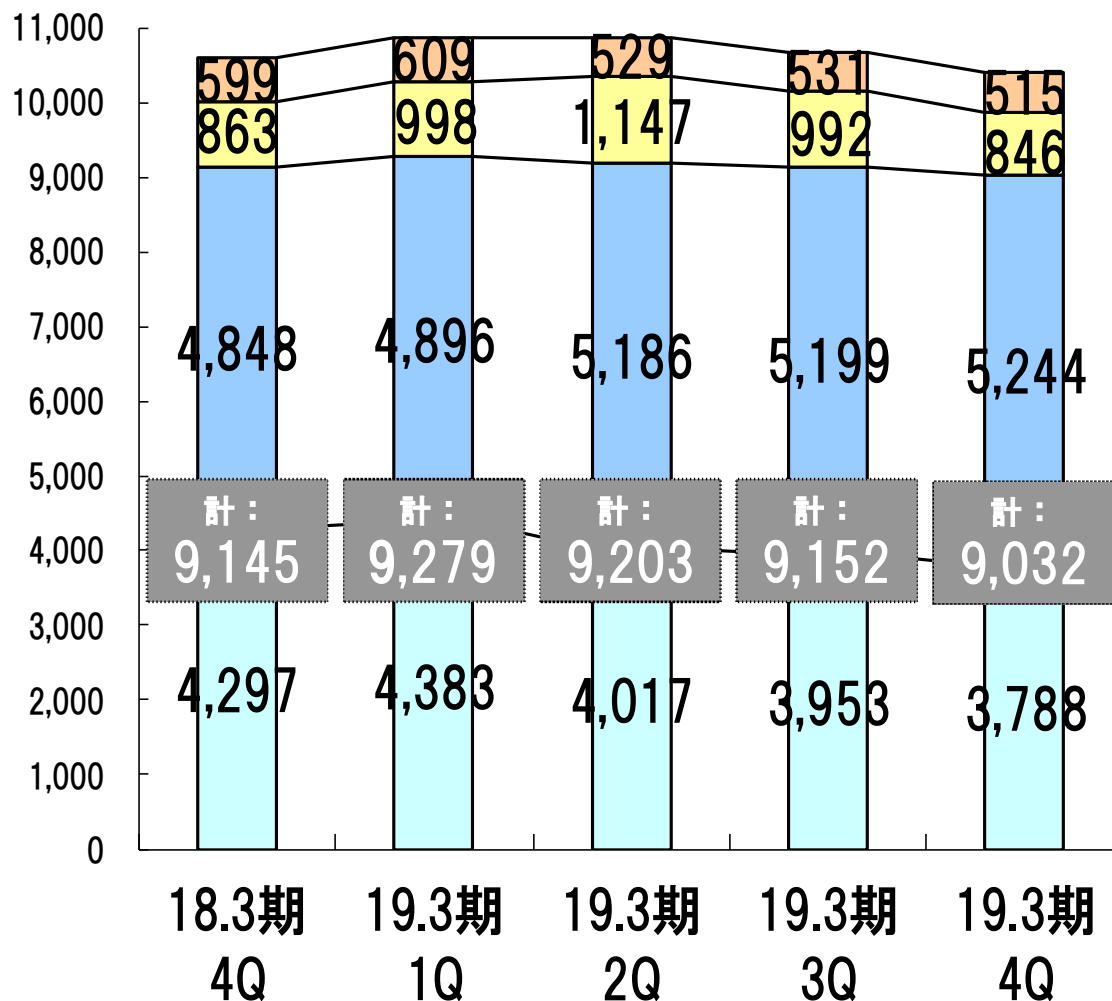


# 4. 市場別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,607 10,886 10,879 10,675 10,393



- ◆ 対18.3期4Q
- 工業用 86.1%
- 消費者 98.1%
- 車載 (エレ) 108.1%
- 車載 (全体) 98.7%
- 車載 (AVN) 88.2%

・ 中国でスマートフォン向けの設備投資の減少に加え、貿易摩擦の影響による設備投資抑制もあり、FA機器向けの需要が鈍化

・ 複合機向けを中心に減少

・ カーエレクトロニクス分野の最高売上更新。安全系とパワートレイン系向けが牽引

・ カーAVN分野はアメリカ、欧州、中国の新車販売不振の影響もあり減少

□ 車載 (AVN) □ 車載 (エレクトロニクス) □ 消費者 □ 工業用

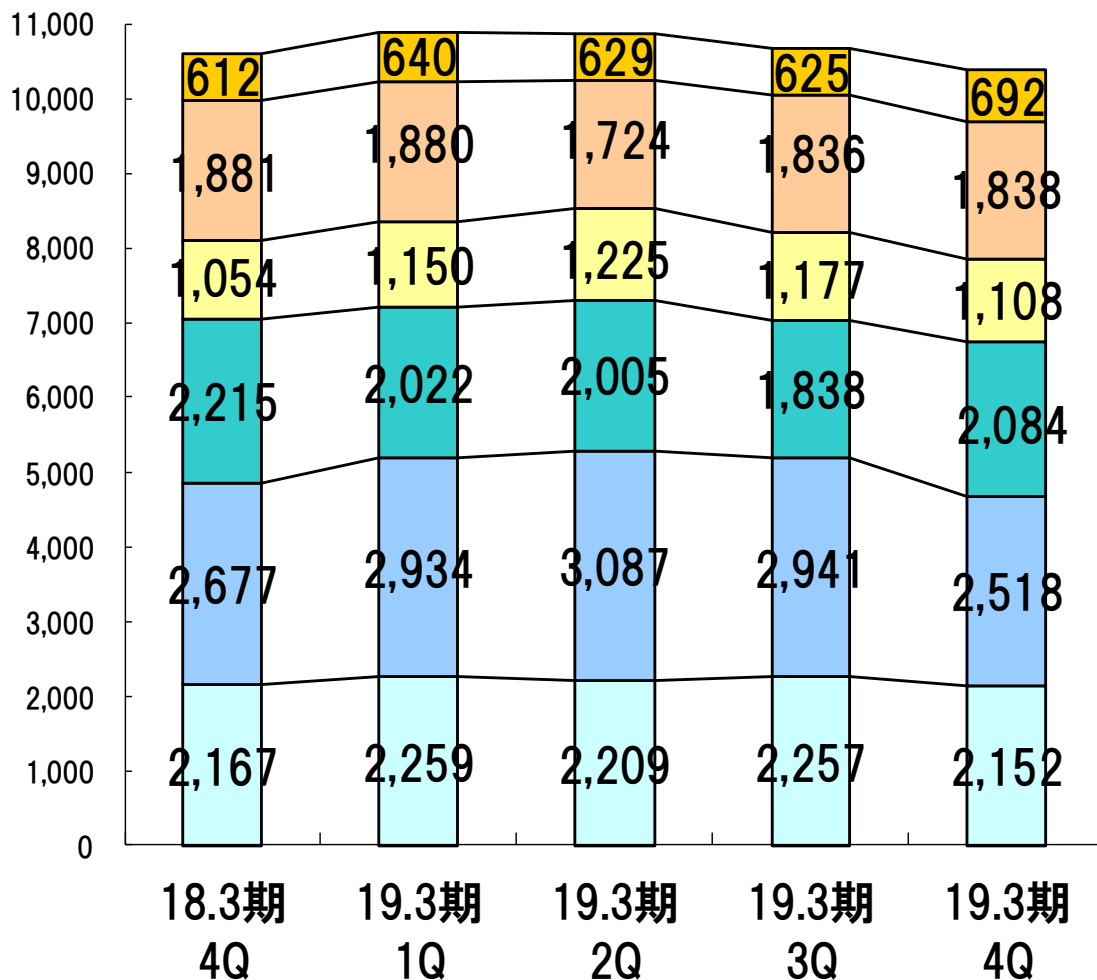


# 5. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,607 10,886 10,879 10,675 10,393



◆対18.3期4Q

タイランド  
113.1%

米国  
97.7%

シンガポール  
105.2%

欧州  
94.1%

中華・韓国圏  
94.0%

日本  
99.3%

・コンシューマー市場の減少を車載市場がカバー

・カーエレクトロニクス分野で伸びるもAVN分野で減少

・カーエレクトロニクス分野が好調

・WLTP導入の影響で在庫調整が行われており、車載市場が減少

・乗用車販売不振でカーAVN分野が減少

カーエレクトロニクス分野で増加したが、その他の市場で減少

□日本 □中華・韓国圏 □欧州 □シンガポール □米国 □タイランド



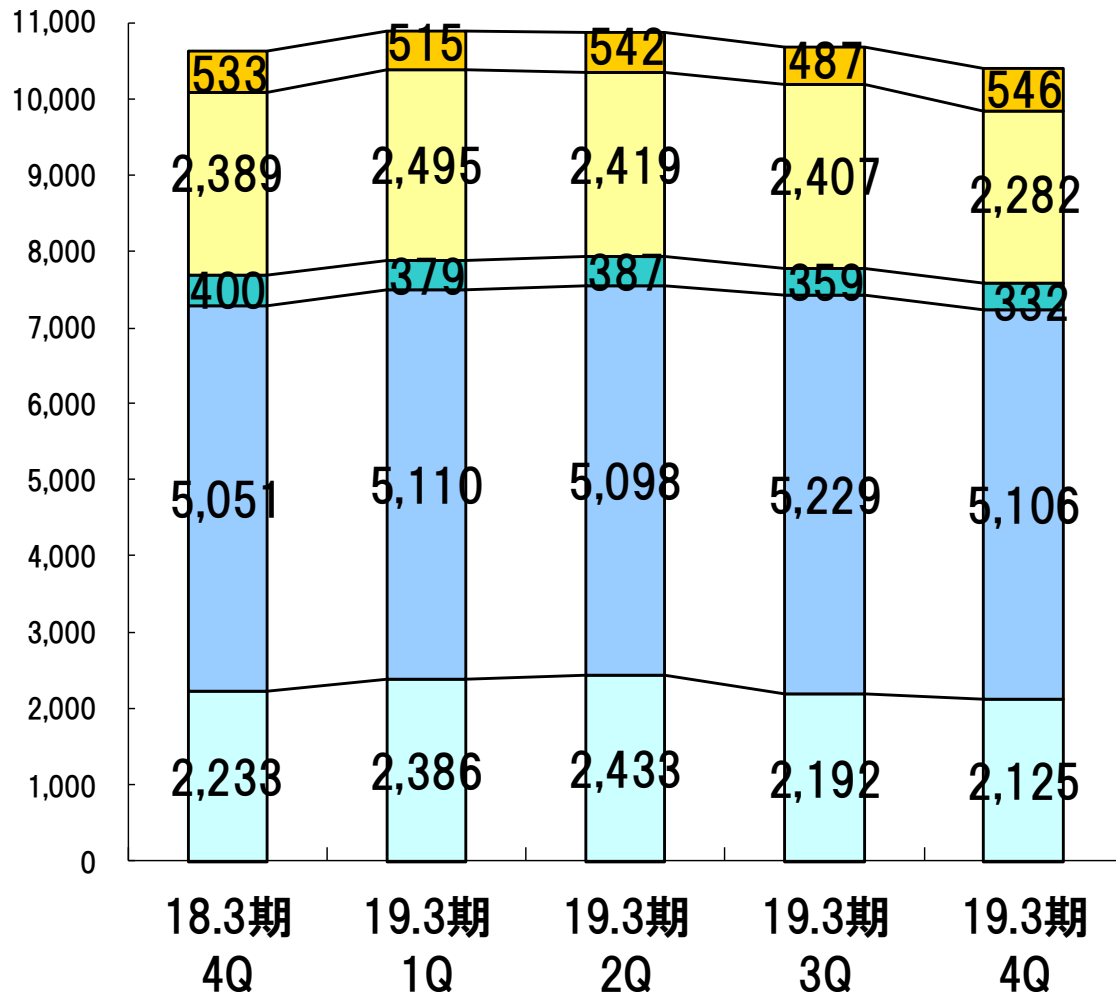
# 6. 製品別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,607 10,886 10,879 10,675 10,393

◆対18.3期4Q



- ◆対18.3期4Q
- その他 102.4%
- 車載IFコネクタ 95.5%
- ピンヘッダー 83.0%
- BtoBコネクタ 101.1%
- FPCコネクタ 95.2%

・ 車載市場の増加

・ カーAVN分野、  
コンシューマー市場での減少



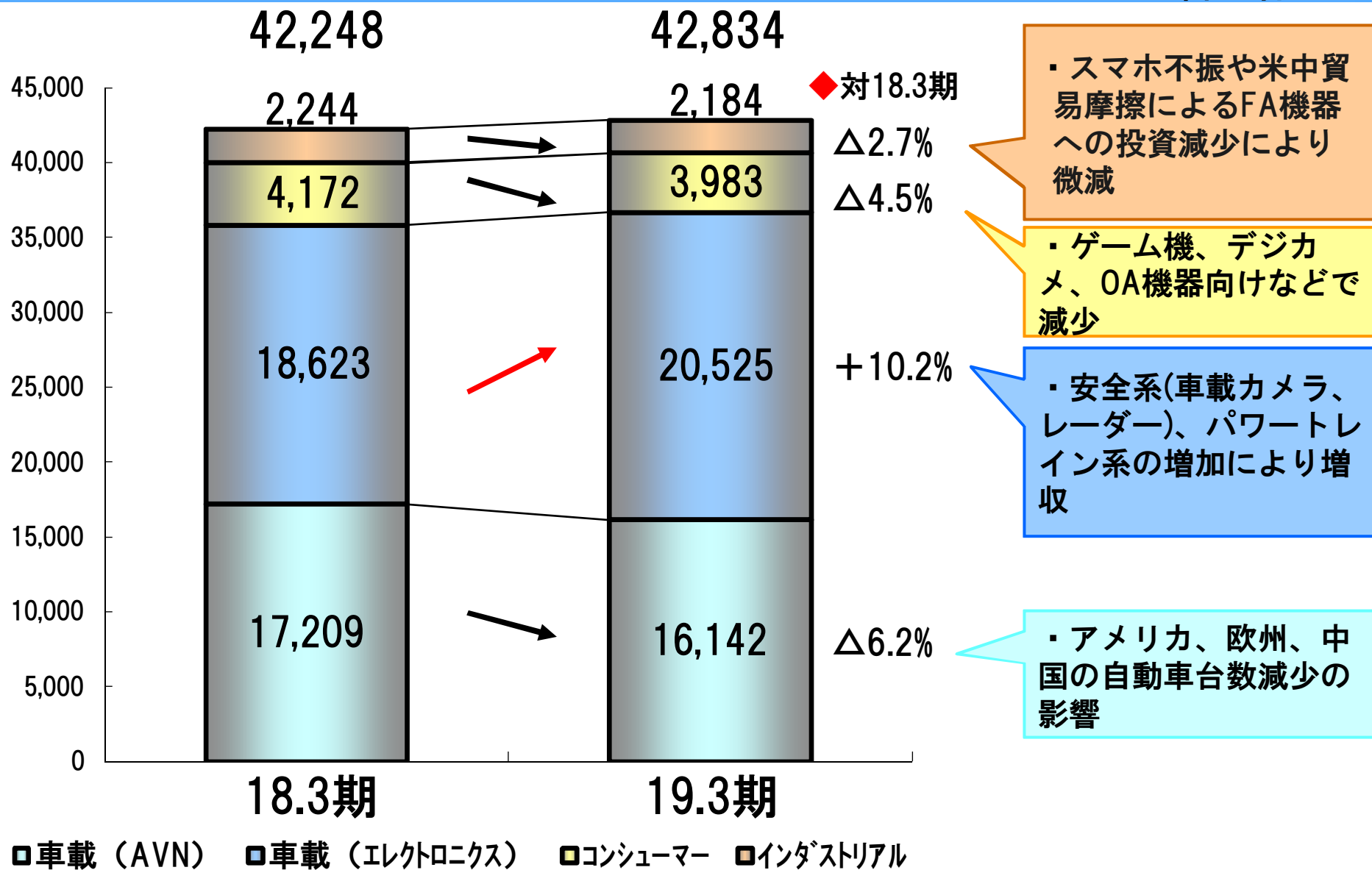
□FPC □B to B □ピンヘッダー □車載向けIF □その他



# 7. 市場別売上高(通期累計)

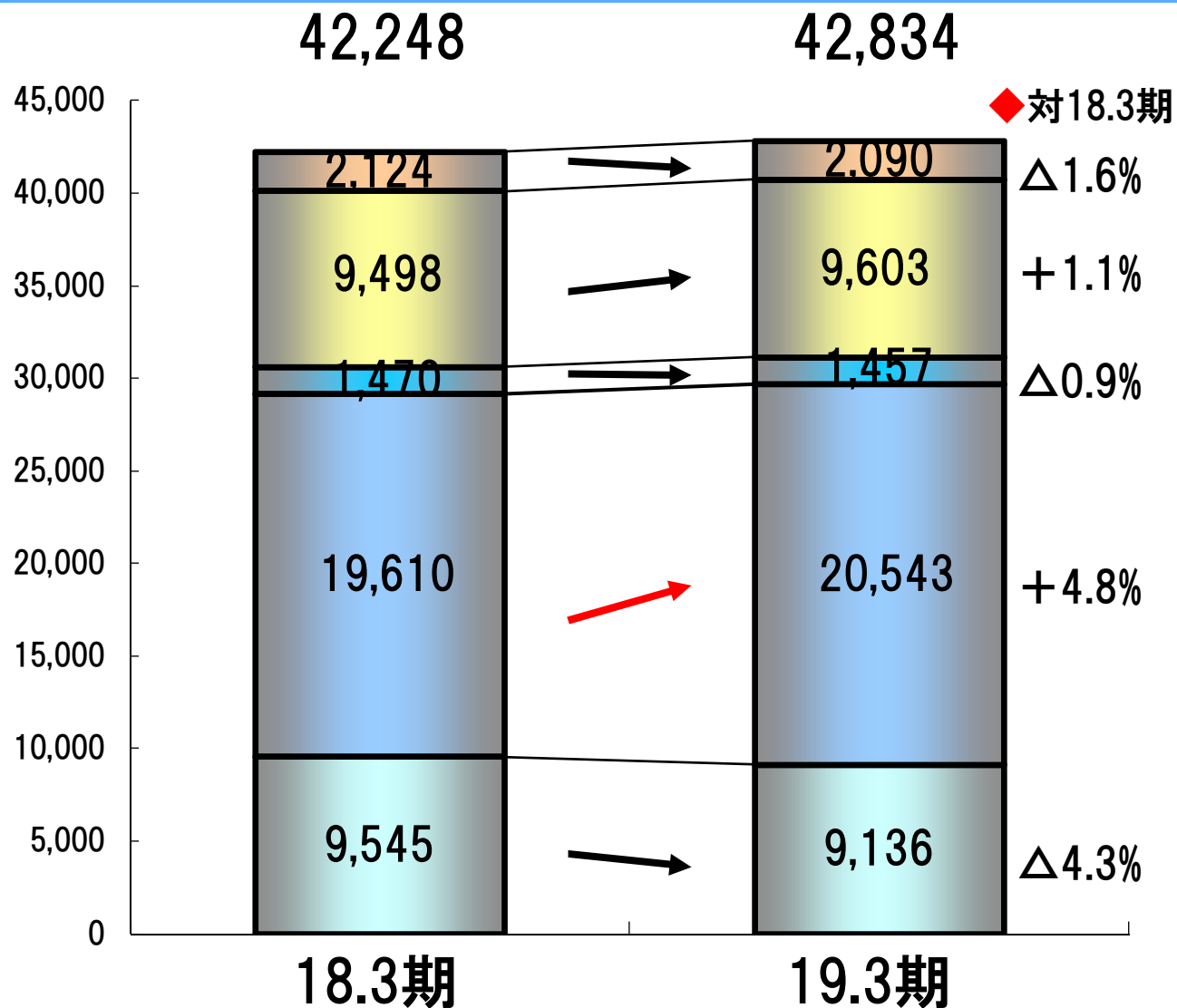


単位：百万円



## 8. 製品別売上高(通期累計)

単位：百万円



・ イリソの強みが活かせるBtoB製品群が車載市場向けを中心に増加

・ 構成比は前期比1.6ポイント増加の48.0%

■ FPC ■ B to B ■ P/H ■ 車載向けIF ■ その他

## 9. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位：百万円

	18.3期 累計		19.3期 累計		前期比	
売上高	42,248	100.0%	42,834	100.0%	585	101.4%
売上原価	25,751	61.0%	27,942	65.2%	2,191	108.5%
売上総利益	16,497	39.0%	14,891	34.8%	△1,605	90.3%
販売管理費	8,070	19.1%	8,807	20.6%	736	109.1%
営業利益	8,426	19.9%	6,084	14.2%	△2,342	72.2%
営業外収益	85	0.2%	295	0.7%	210	345.3%
営業外費用	639	1.5%	54	0.1%	△585	8.5%
経常利益	7,872	18.6%	6,325	14.8%	△1,546	80.4%
特別損益	△360	△0.9%	△151	△0.4%	208	41.9%
税前利益	7,512	17.8%	6,173	14.4%	△1,338	82.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,456	12.9%	3,722	8.7%	△1,733	68.2%
E P S	230.47円		157.70円		-	
為替レート (ドル/ユーロ)	110.81円/		110.69円/		△0.12円/	
	129.45円		128.43円		△1.02円	



# 10. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

	18.3期	19.3期	前期末比	増減要因
流動資産	35,858 59.7%	35,103 57.1%	△755	現金及び預金△1,895 商品及び製品645 原材料及び貯蔵品385
固定資産	24,224 40.3%	26,368 42.9%	2,143	有形固定資産2,207
資産合計	60,083 100.0%	61,471 100.0%	1,388	
流動負債	10,046 16.7%	9,442 15.4%	△604	支払手形及び買掛金△645 未払法人税等556 未払金△220
固定負債	753 1.3%	699 1.1%	△54	
負債合計	10,800 18.0%	10,141 16.5%	△658	
株主資本	47,482 79.0%	49,351 80.3%	1,868	利益剰余金2,538
その他の 包括利益累計額	1,530 2.6%	1,663 2.7%	132	為替換算調整勘定136
非支配株主持分	270 0.5%	315 0.5%	45	
純資産合計	49,283 82.0%	51,329 83.5%	2,046	1株純資産 2164.68円 (前期末 2,070.36円)
負債・純資産 合計	60,083 100.0%	61,471 100.0%	1,388	

## 11. キャッシュフロー計算書(連結) (前期比)



単位：百万円

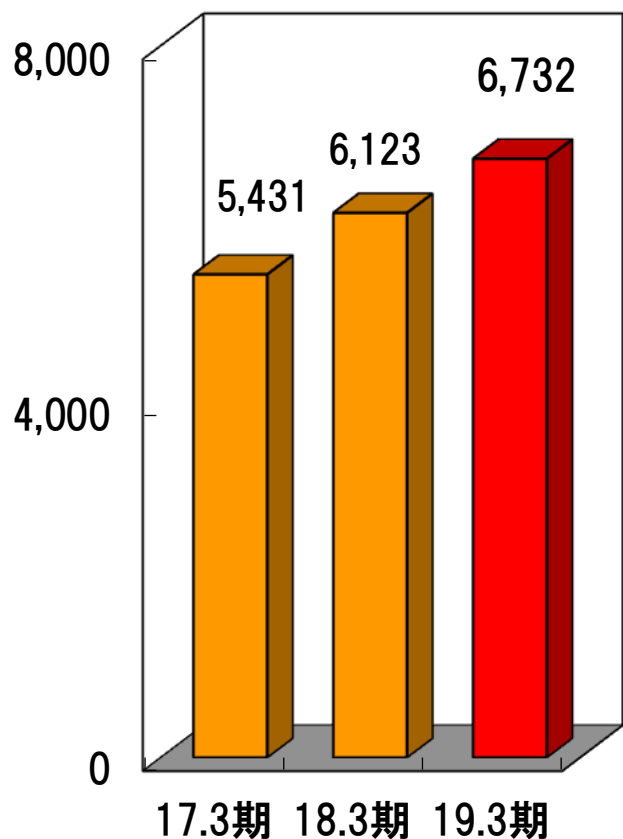
	18.3期	19.3期	増減
営業キャッシュフロー	9,707	6,695	△3,011
税金等調整前四半期純利益	7,512	6,173	△1,338
売上債権増減 (△は増加)	△936	241	1,177
仕入債務増減 (△は減少)	1,310	△645	△1,956
投資キャッシュフロー	△6,727	△6,687	39
有形固定資産の取得	△6,049	△6,653	△604
無形固定資産の取得	△73	△78	△5
財務キャッシュフロー	△777	△1,950	△1,172
短期借入金純増減	-	-	-
自己株式の取得による支出	△1	△670	△669
現金及び現金同等物に係る換算差額	△93	46	139
現金及び現金同等物の増減	2,109	△1,895	△4,005
現金及び現金同等物の期首残高	15,242	17,352	2,109
現金及び現金同等物期末残	17,352	15,456	△1,895



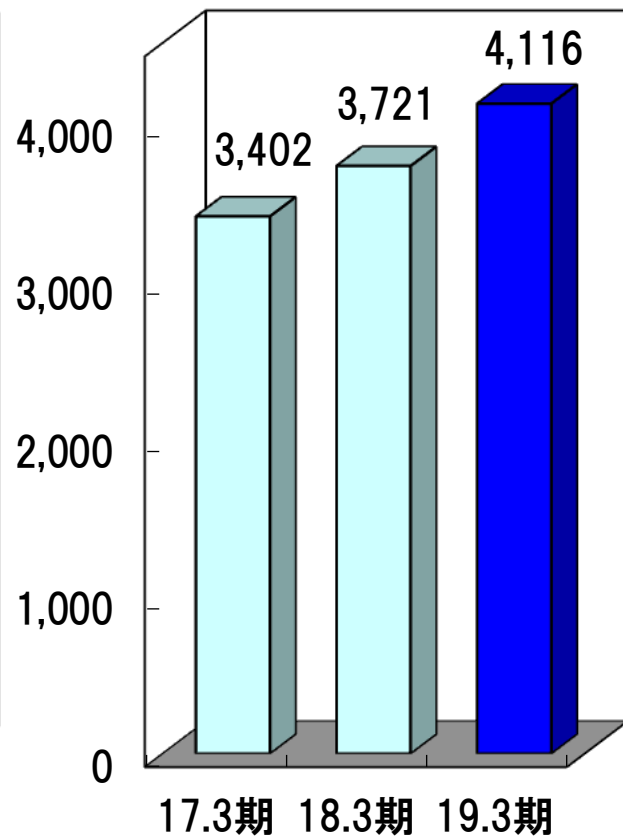
## 12. 設備投資・減価償却・研究開発



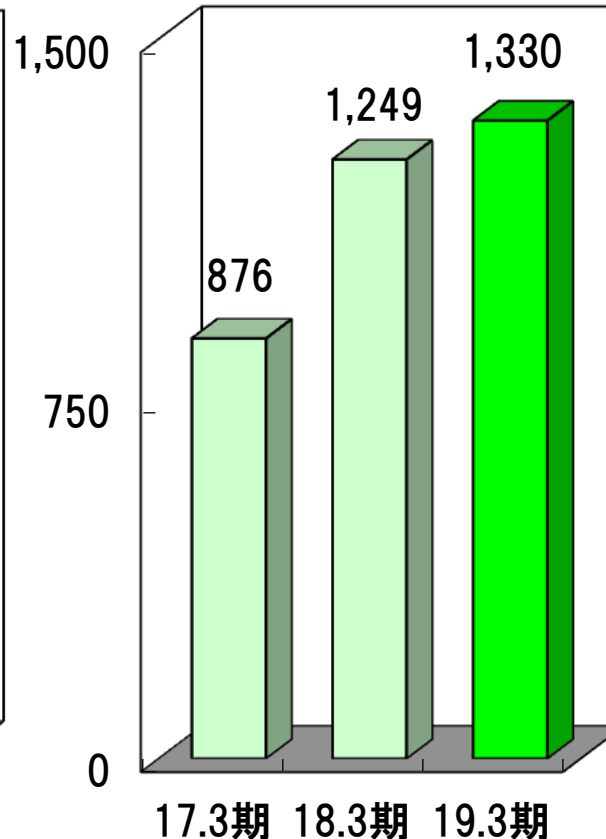
単位：百万円



設備投資




減価償却



研究開発



I. 2019.3期 連結決算概要

 II. 2020.3期 連結決算見通し

III. 中期経営計画(18.3期～20.3期)進捗状況

IV. 長期ビジョン1,000億円に向けて

# 1. 2020年3月期 計画(前期比)



単位：百万円

	19.3期 実績	(上期) (下期)	20.3期 計画	(上期) (下期)	通期 前期比
売上高	42,834	(21,765) (21,068)	45,000	(21,500) (23,500)	2,165 105.1%
営業利益	6,084 (14.2%)	(3,674) (2,409)	8,100 (18.0%)	(3,400) (4,700)	2,015 133.1%
経常利益	6,325 (14.8%)	(4,035) (2,289)	8,100 (18.0%)	(3,400) (4,700)	1,774 128.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,722 (8.7%)	(2,966) (755)	6,100 (13.6%)	(2,600) (3,500)	2,377 163.9%
EPS	157.70円	—	258.84円		
為替	ドル110.69円 ユーロ128.43円	—	ドル110.00円 ユーロ125.00円		





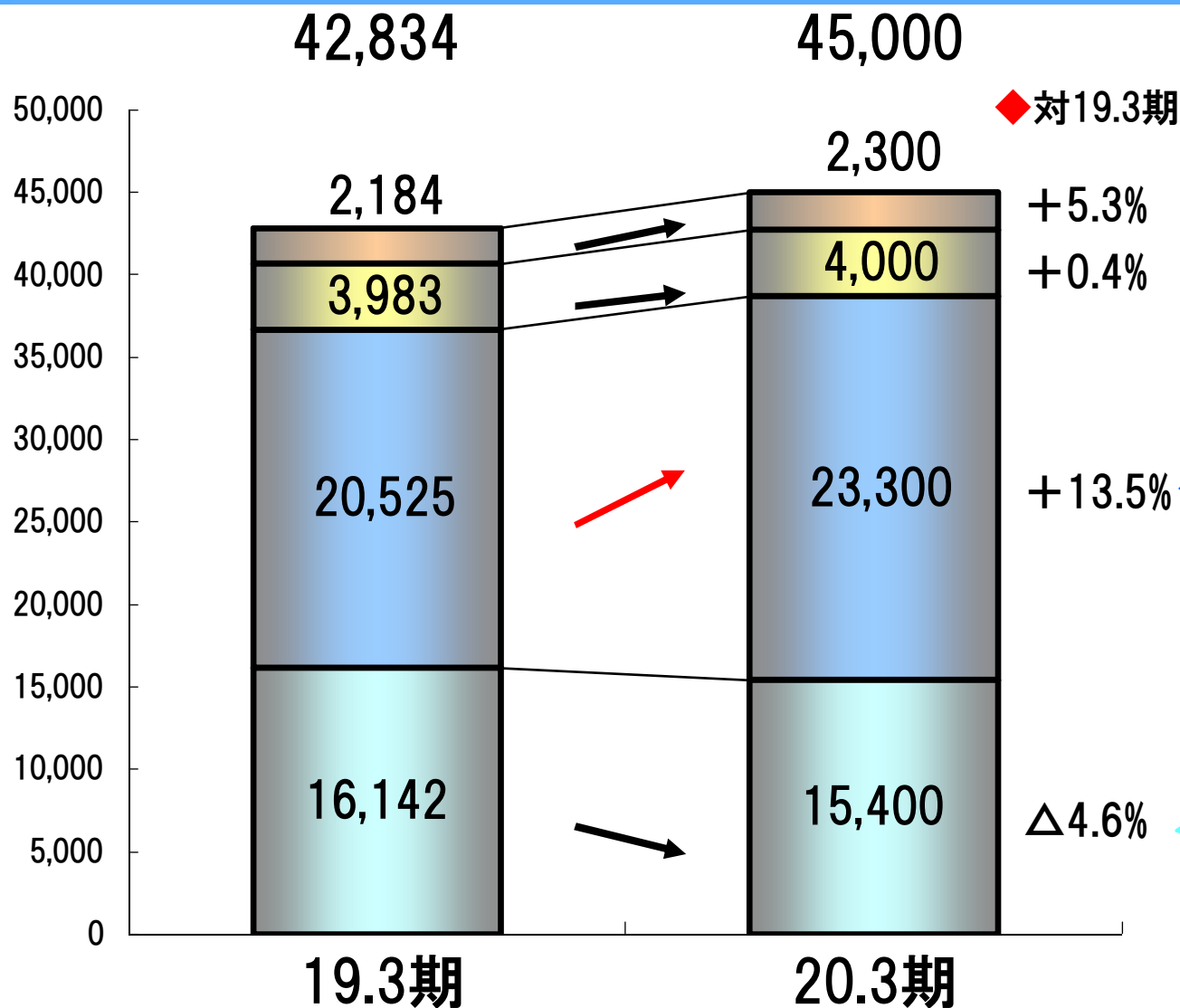
## 2. 2020年3月期 計画(設定条件)



項目	設定条件
	USD 110.00円 / \$
為替	EUR 125.00円 / €
	元 16.50円 / 元
設備投資	7,500百万円
減価償却	4,500百万円
研究開発費	1,500百万円

### 3. 市場別売上高(通期累計)

単位：百万円



・在庫調整が終了し、PLC、インバーター、サーボアンプなどで回復

・安全系(車載カメラ、レーダー)向け、パワートレイン系向けが引き続き伸長し、最高売上高を更新する計画

・中国を筆頭とした自動車販売台数減少の影響に加え、ディスプレイオーディオ化による1台当たりのコネクタ搭載金額の減少

■ 車載 (AVN)  
 ■ 車載 (エレクトロニクス)  
 ■ コンシューマー  
 ■ インダストリアル

- (1) **売上高予想 45,000百万円(前期比+2,165百万円)**
- ・ **前期からの外部環境の悪化は上半期まで続く想定  
下半期回復型の計画**
  - ・ **カーエレクトロニクス分野が伸びを牽引  
特にレーダーや車載カメラ向けの安全系と  
パワートレイン系が引き続き大きく増加**
- (2) **営業利益予想 8,100百万円(前期比+2,015百万円)**
- ・ **自動化、合理化による原価低減活動**

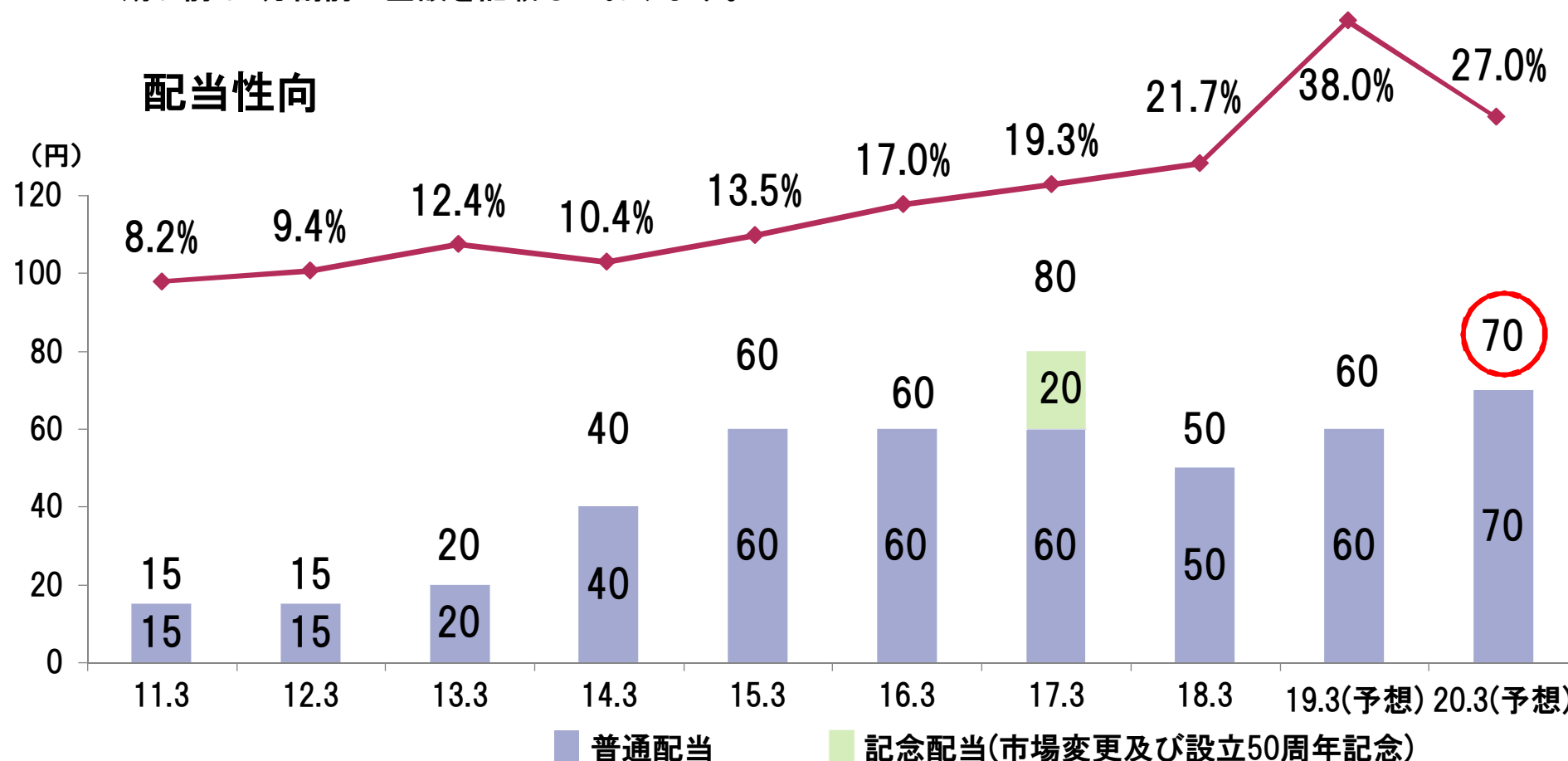
### マクロ経済の悪化を想定

	項目	効果	施策
コンテンツ ジェンシー プラン	追加の原価低減実施	約5億円	早期に実施し、効果を早める
	設備投資の厳選	約0.8億円	確実性を重視した効率的投資
	経費の削減	約5億円	経費の厳選と管理の徹底
	人員の適正採用	約0.7億円	業務効率化の実施

## 5. 株主還元

- ・ 20.3期は70円予想(19.3期予想比+10円)
- ・ 中期経営計画では**配当性向30%**を目指しています

※2017年9月に1:2の株式分割を行いました。  
17.3期以前は2分割前の金額を記載しております。





I. 2019.3期 連結決算概要

II. 2020.3期 連結決算見通し

 III. 中期経営計画(18.3期～20.3期)進捗状況

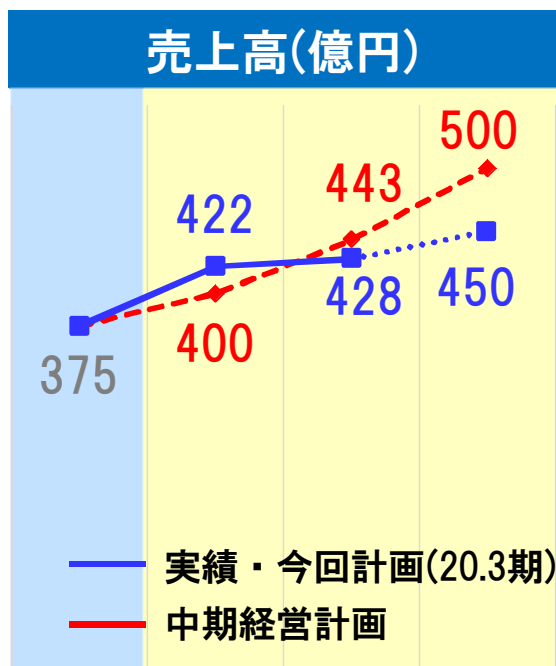
IV. 長期ビジョン1,000億円に向けて



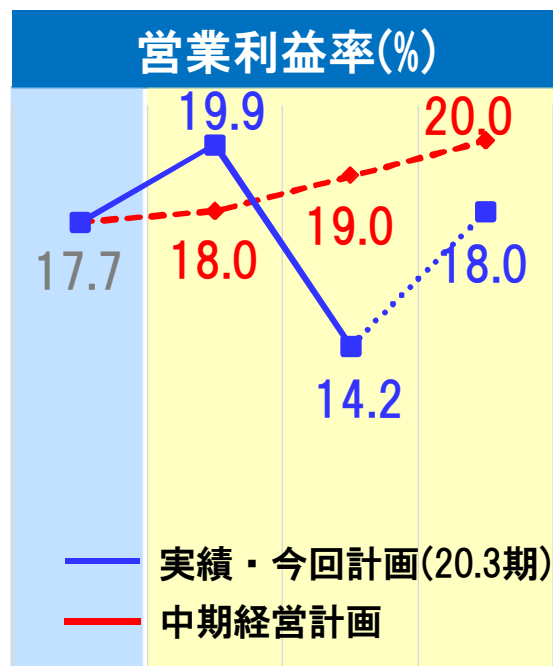
# 1. 中期経営計画 進捗状況(業績目標)



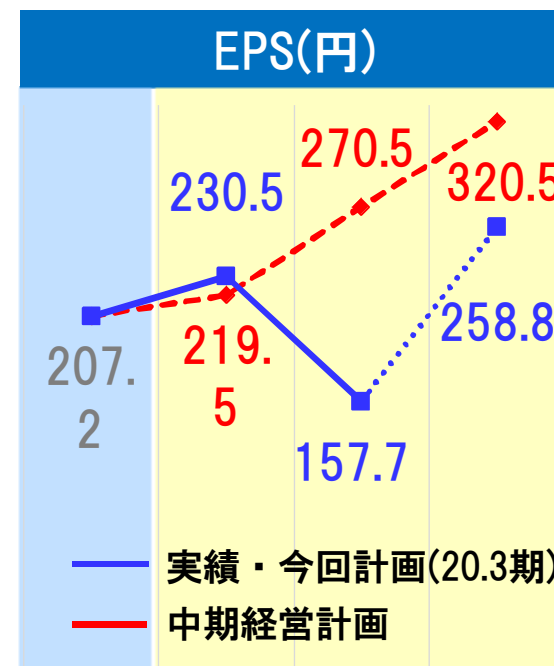
一時的な外部環境の変化を受け、19.3期は計画より下回る結果へ。  
**20.3期の当初売上500億円の目標は来期に繰り越します。**



17.3期 18.3期 19.3期 20.3期



17.3期 18.3期 19.3期 20.3期



17.3期 18.3期 19.3期 20.3期

為替前提	17.3期実績	中期経営計画	18.3期実績	19.3期実績	20.3期計画
USD	109.03円	110.00円	110.81円	110.69円	110.00円
EUR	119.37円	120.00円	129.45円	128.43円	125.00円
元	16.2円	15.8円	16.74円	16.53円	16.5円

## 2. 19.3期の成果と20.3期以降の課題・展望①



		成果	要因	課題・展望
売上	車載(AVN)	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>18.3期比約94%</li> <li>自動車販売台数の減少</li> <li>ディスプレイオーディオ化による1台当たりのコネクタ搭載金額の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティング強化による自動車業界トレンドの把握とコックピット化などを見据えた製品開発</li> </ul>
	車載(PA25エリア) ※安全系、パワートレイン系など注力するエリア	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全系、パワートレイン系で18.3期比約130%</li> <li>将来の受注も順調に獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PA25のグローバル展開の更なる強化</li> </ul>
	インダストリアル	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>18.3期比約97%</li> <li>中国での設備投資減少</li> <li>グローバルでの顧客開拓の遅れと間接販売の低迷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル拡販の強化</li> <li>製品ポートフォリオの拡充(協業含む)</li> </ul>
利益	営業利益	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>18.3期比約72%</li> <li>売上減による操業度低下</li> <li>品質関連など一時費用の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上の確保</li> <li>原価低減の徹底</li> <li>設計の標準化の推進</li> <li>スマートファクトリーの推進</li> </ul>

注：PA25：安全系、パワートレイン系、モーター、インフォテインメント、2輪の5アプリケーション

### 3. 19.3期の成果と20.3期以降の課題・展望②

		成果	要因	課題・展望
成長投資	製品開発	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>“Z-Move®” ラインナップの拡充と高速伝送対応製品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Only One製品の追求</li> </ul>
	生産力の強化	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年4月南通工場開業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートファクトリー化の推進</li> <li>メキシコ新工場の建設取り組み開始</li> </ul>
経営基盤	ガバナンス強化	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>「監査等委員会設置会社」への移行と「指名委員会」、「報酬委員会」の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社外取締役1/3以上など</li> </ul>



マクロ経済の影響を受け、20.3期売上500億円の目標は21.3期に繰り越しますがイリソは継続的な成長を目指しています。新たに長期ビジョンとしている売上1,000億円の目標達成時期を設定し、それに向けて取り組んでいきます。





I. 2019.3期 連結決算概要

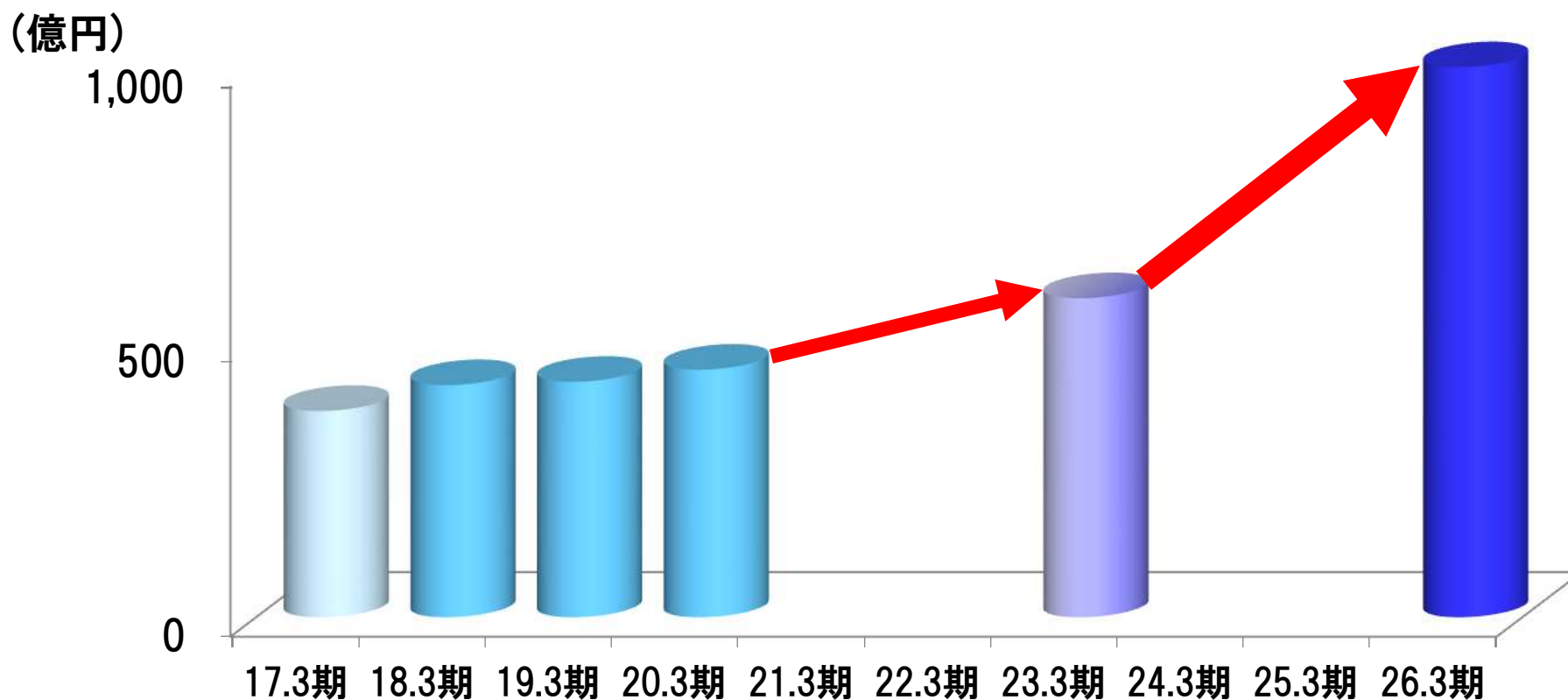
II. 2020.3期 連結決算見通し

III. 中期経営計画(18.3期～20.3期)進捗状況

 IV. 長期ビジョン1,000億円に向けて

2017年5月策定の中期経営計画にて、  
長期ビジョンとして**売上1,000億円**を掲げました。

この売上1,000億円達成目標時期を**2025年(2026年3月期)**とします。



## 2. 売上1,000億円の目的と意義



### 市場動向

大きな技術革新(電動化、自度運転化)とコモディティ化の進行

### イリソの目指す方向

経営理念：「未来に続く架け橋として」(サステナビリティ)  
⇒「顧客価値を創造する100年企業」となること

### 規模の必要性

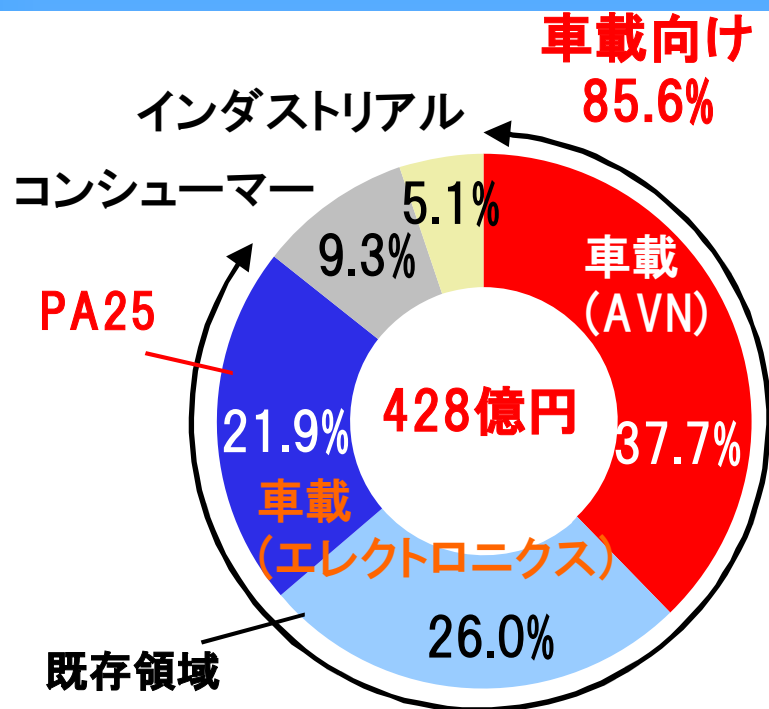
顧客価値創造のための「顧客課題の抽出」と  
課題を解決するための「製品開発」「営業力」には規模が必要

売上1,000億円を一つの通過点として設定し、接続部品業界で  
グローバルトップ10入りし、規模の確保とブランド価値の構築

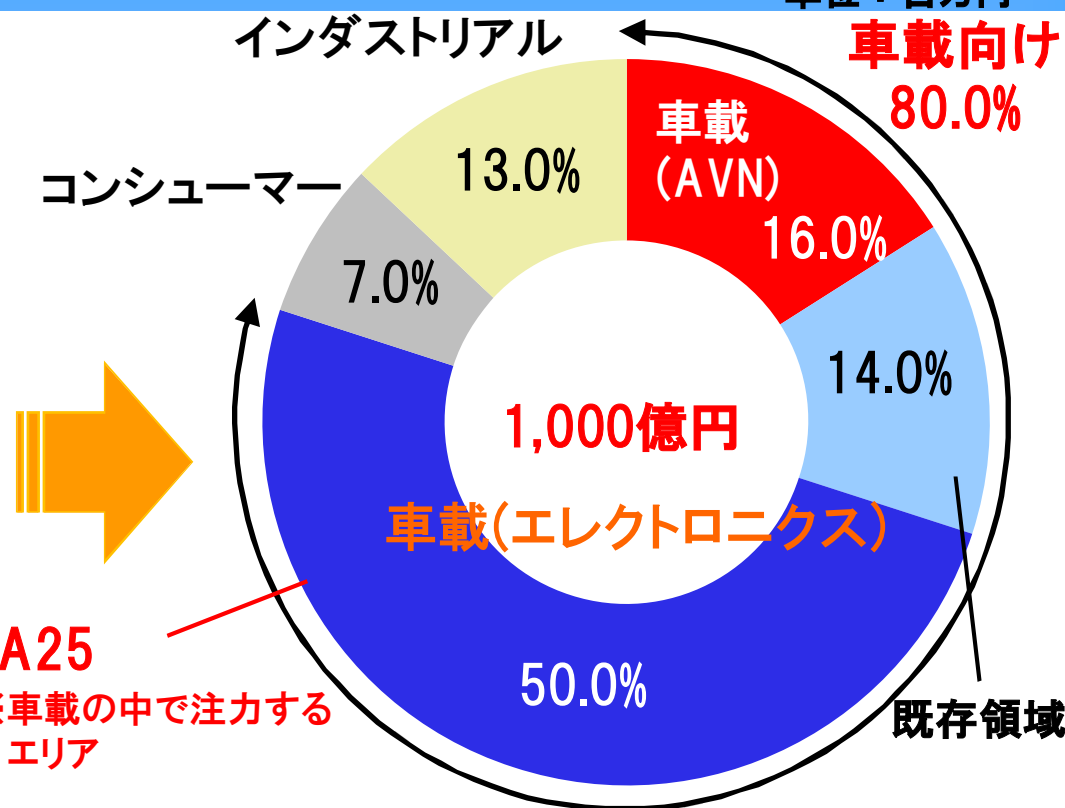


### 3. 市場別想定ポートフォリオ

単位：百万円



FY2018(19.3期)

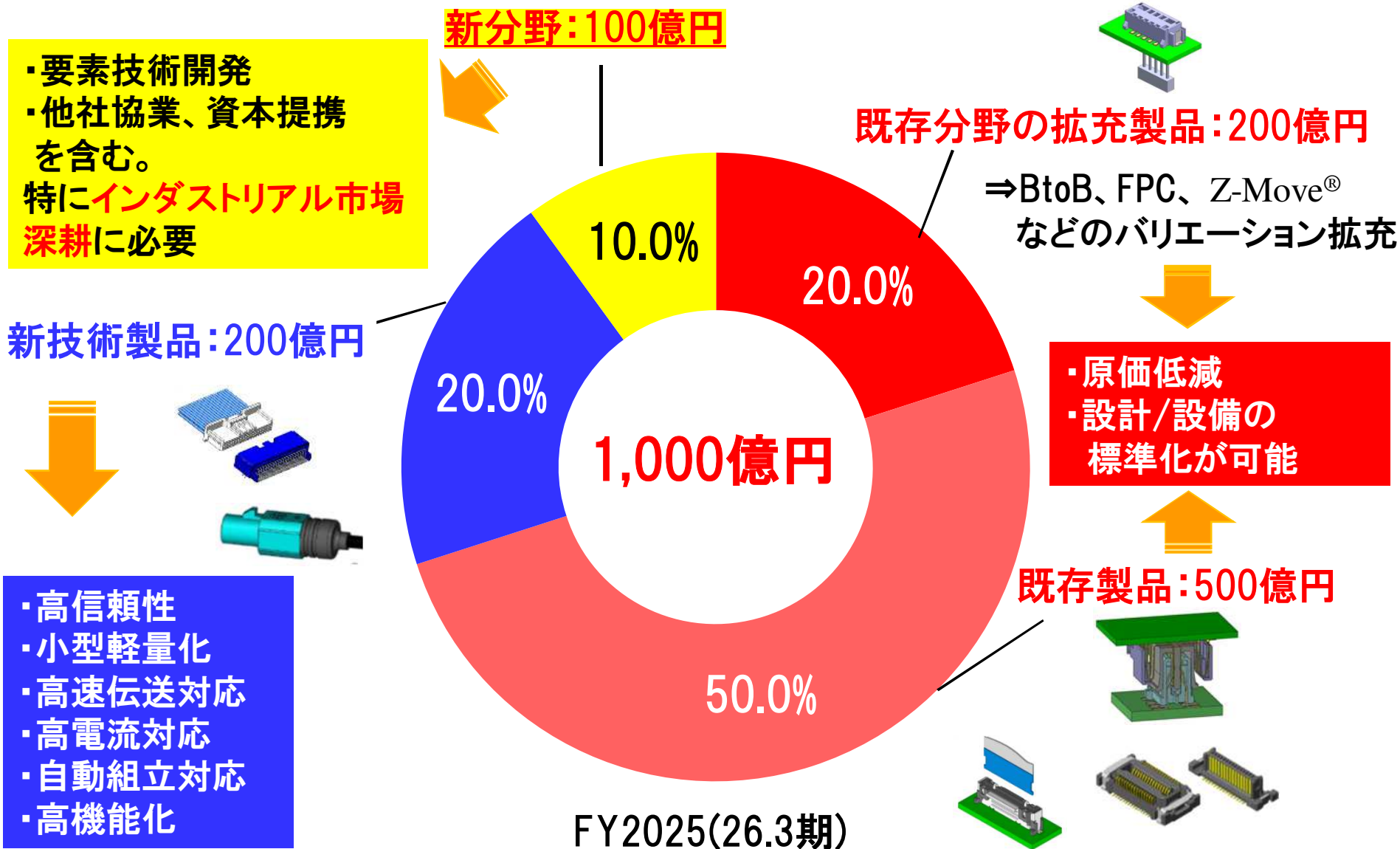


FY2025(26.3期)

市場別売上目標	FY2018	FY2025
車載(AVN)	16,142	16,000
車載(エレクトロニクス)	20,525	64,000
コンシューマー	3,983	7,000
インダストリアル	2,184	13,000



# 4. 製品別想定ポートフォリオ



# Key Point : グローバル顧客へのスピーディーな価値創造

## 1. 販売力の増強

- ①車載市場・・・グローバルの車載顧客に提案、需要を創造できる仕組み
  - 海外拠点にも販売戦略をシームレスに展開
  - 自動車メーカー含めた業界トレンドの把握  
⇒マーケティングの強化
  - GKAM(Global Key Account Manager)制度により、  
グローバル顧客から信頼される体制作り
  
- ②非車載市場・・・グローバルでのインダストリアル市場のスピーディーな攻略
  - グローバル顧客への拡販展開
  - 代理店を活用した販売チャネルの拡充
  - ホームページの充実によるイリソのブランド価値と  
ユーザーエクスペリエンスの向上

### 2. 開発力の拡充

- コアコンピタンスとなる技術(可動BtoBコネクタなど)の拡充
- 付加価値製品の追求  
⇒ Only One製品の開発
- オープンイノベーションによる要素技術開発
- シナジー効果のある協業や資本提携  
⇒ 外部購入技術、開発購買、SQM . . . 新組織機能
- 設計標準化による開発効率の向上
- 海外営業拠点に「イリソ・エンジニアリング・ラボ」設置

注：SQM：Supplier Quality Management

### 3. 製造力とコスト力の強化

- 受注拡大を見据えた先行的な生産能力の増強と最適化  
⇒ 効率的拠点配置(メキシコ工場の新設)、スマートファクトリー化
- グローバルPSIの構築
- 製品設計と設備の標準化によるコスト競争力の向上

注：PSI：Purchase/Production, Sale/Ship, Inventory

会 社 名	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	1966年12月
社 員 数	3,645名(2019年3月31日現在)
資 本 金	5,640百万円(2019年3月31日現在)
本 社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	
国 内	本社、岩手県、茨城県、愛知県、大阪府
海 外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、上海R&Dセンター
工 場	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)



## コネクタの種類

### 基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

### FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

### I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット/アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

### ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。